

郡上八幡春祭りみこしコンクールの実態と運営に関する調査研究 —ものづくりを伴う地域行事の意義に着目して—

5214D032-1 橋本 優華

Yuka Hashimoto

本研究は、ものづくりを伴う地域行事の特質を、伝統行事との比較を含めて明らかにする。具体的事例として、全貌に関するまとまった調査が行われていない、郡上八幡春祭りみこしコンクールを対象とし、三組織の運営形態や運営資金の流れ、行事に対する愛着に関するヒアリング調査によって実態を明らかにした。合わせて同地域の伝統行事である三社合同例祭と比較した。その結果、みこし制作という共同でのものづくりは、コミュニティの構成員がキーパーソンとなる場面が生じること、他地区への対抗意識から地区内の結束意識が高まること、材料調達において地域内での経済循環を生むことが明らかとなり、これらはコミュニティの持続性や強化に対する意義が大きいと考えられる。

Key Words : 郡上八幡, 地域行事・祭事, 地域自治, コミュニティ

1. はじめに

1.1 研究背景

岐阜県郡上市八幡町（以下、郡上八幡）は、城下町として発展し、現在も町の骨格にその面影を残す。伝統的な建造物群が立ち並ぶ町並や、生活に密着した水路や洗い場などの水利用施設を保存するための自治組織が町内単位で存在し、地域のコミュニティの核として多くの研究対象とされている¹⁾が、こうした生活基盤に密着した組織の他にも、地域内行事を軸とした組織も郡上八幡には存在する。内山節は、「共同体の基礎理論」²⁾において、日本では共同体の維持・管理という面において、祭りや年中行事が自治の仕組みとして機能していた³⁾と述べ、実際に都市における祝祭研究の中でも、祭事を通じて、その集団行動や協力のシステムから共同体の社会との関係が追求されている⁴⁾。

本研究では、岐阜県郡上市八幡町（以下郡上八幡）の春祭りを対象として取り扱い、特にその中でも、毎年各町内が制作する「みこし」に着目する。共同でみこしを毎年作るという身体感覚を伴った造形行為には、イメージを形にする工夫や考案力、並びに材料の確保、また、共同体内における自己の発揮や他との協調を必要とする。ものをつくるという目的のためのこうした特性を明らかにすることは、まちの自治組織の多様性を把握する上でも必要であると考えられる。

1.2 研究目的

上記の背景より、本研究ではこれまでまとまった資料が残されていない郡上八幡春祭りみこしコンクールを対象として、組織の運営形態や資金の流れ、行事に対する愛着といった観点から実態を明らかにすることを目的とする。また、それらの結果を踏まえて、同祭りで行われる岐阜県無形民俗文化財に指定されている三社例祭と比較することで、ものづくりを伴う地域行事の特質を明らかにすることを目的とする。さらに、そのような行事が地域自治に対して持つ意義について示唆を得ることを期待する。

2. 研究の概要

2.1 既往研究の整理と本研究の位置付け

祭事に関する研究は多数あるが、地域内行事がコミュニティに対して与える影響に関する研究としては、行事等がコミュニティに与える影響を明示する為に祭事を運営する主体の実態調査に重きを置いた研究⁴⁾⁵⁾、行事を継承して行く為の必要条件を把握する為に祭事を構成する要素の詳細な調査に注力した研究⁶⁾などがある。また、コミュニティの発展、継続要因に関する研究として、地縁組織やNPO法人などの活動をつぶさに調査し、活動の継続要因を明らかにしたものがある⁷⁾⁸⁾。

本研究は、これまでまとまった記録が残されていない郡上八幡のみこしコンクールに対して基礎調査を行い、作成されるみこしの形態、運営組織、材料の調達場所といった観点から、現在のみこし制作における実態を把握する。祭礼等の地域行事の実態を把握し地域自治との関連性を分析するものは多くあるが、その中でも、ものづくりという行為を伴った地域行事を対象とする点に特徴がある。

2.2 研究方法

本研究は、運営組織に対するインタビュー調査並びに資料調査による。調査では、みこし制作組織並びに神楽奉賛会の組織運営や、運営資金の流れ、行事に対する愛着、みこし制作については制作物の詳細といった点からインタビューを行った。

論文の構成は図 2-1 に示す通りであり、4 章では郡上八幡春祭りの運営について運営主体にヒアリングを行うことで実態を把握する。5 章、6 章では文献及びヒアリング調査から、みこしコンクールと神楽の実態を明らかにする。その際に、組織の運営形態、資金の流れ、行事に対する意識という観点から 2 行事を比較し、7 章において比較された結果から抽出されたみこしコンクールの特徴を述べる。

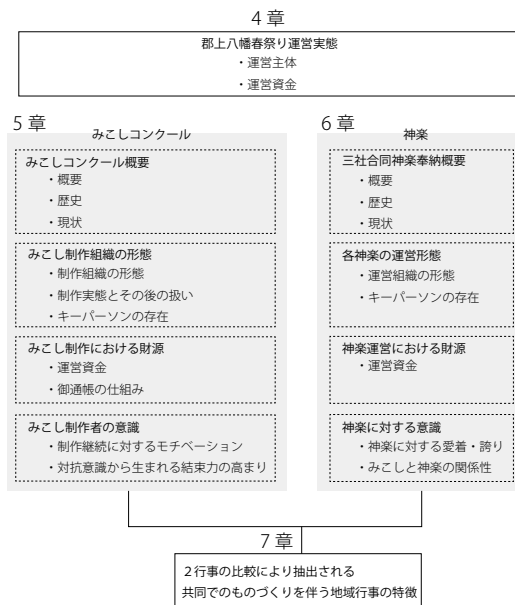


図 2-1: 研究の流れ

3. 調査対象概要と調査方法

3.1 岐阜県郡上市八幡町の概要

岐阜県郡上市八幡町（以下、郡上八幡）は、2004 年に八幡町を含む郡上郡の 7 町村が合併してできた郡上市のほぼ中央に位置し、2008 年 10 月 1 日現在で、郡上八幡の人口は 15,535 人、面積 242.31 ㎢である。東西及び北の三方を山に囲まれ、市街地を南北に小駄良川、東西に吉田川が走り、吉田川を挟んで南側を南町、北側を北町と呼ぶ。

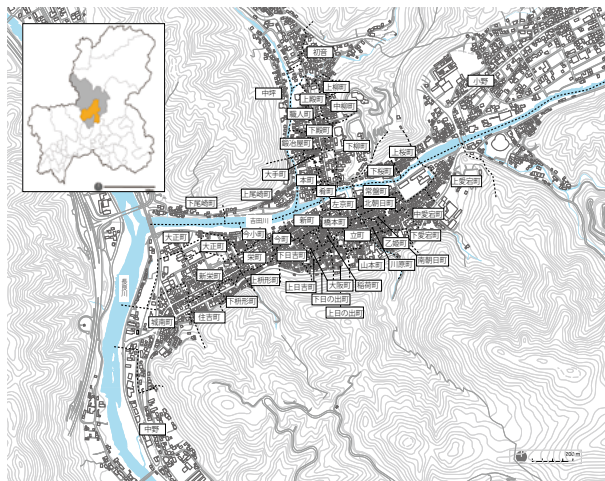


図 3-1: 岐阜県郡上市八幡町の位置と町名

3.2 研究対象行事の概要

岐阜県郡上市八幡町の春祭りは、神楽奉納とみこしコンクールとの二つの行事から成り立ち、主に旧八幡町と呼ばれる地域で 4 月の第 3 週土日に行われる。郡上八幡春祭りのために土日の間は車両通行が規制され、神楽・みこし共に町内を練り歩く。神楽奉納は、日吉神社・岸劔神社・小野八幡神社の三社合同例祭で

あり、三社の大神楽はいずれも県の重要無形民俗文化財に登録されている。



図 3-2: 町内みこし（左）と大神楽（右）の様子

3.3 調査の概要

みこしコンクールに関する調査については、春祭りにてみこしを担ぐ 21 町内全てに対してインタビューを行い、各みこしの形態や運営組織などの実態を捉える。また、春祭り運営組織にもみこしコンクールの変遷や運営主体の変化、運営資金についてなどについて聞き取りを行い、現況を把握する。資料調査に関しては、郡上八幡春祭り実行委員会の所持する会議資料、郡上市商工会が保有する写真資料、株式会社インフォメーションネットワーク郡上八幡が保有しているビデオデータよりみこしコンクール参加団体の変遷を整理した。

神楽奉納に関する調査については、例祭を運営する各神社の責任者に対して神楽の祭事構成や巡行ルート、神楽の運営組織についてのインタビュー並びに資料⁹⁾¹⁰⁾調査を行った。

表 3-3: みこしに関する調査概要及び資料から得られるデータ

ヒアリング調査		年代	出典	コンクール参加	コンクール不参加
対象者	みこしを出す 21 団体の構成員 郡上春祭り実行委員会	1991	ビデオデータ	○	×
方法	対面によるインタビュー形式 対面によるインタビュー形式	1993	ビデオデータ	○	×
期間	①2015/4/5～4/18、 ②2015/6/2～6/3、 ③2015/10/31～11/2	1994	ビデオデータ	○	×
		1995	ビデオデータ	データ欠損	×
内容	・みこしの制作組織 ・みこしの形態 ・みこしの材料 ・みこしのルート ・祭り後のみこしの取り扱い	1998	ビデオデータ	○	×
		1999	ビデオデータ	○	×
		2000	写真	○	×
		2001	写真	○	×
		2005	写真、ビデオデータ	○	○
		2008	ビデオデータ	○	×
		2009	ビデオデータ	○	×
		2012	会議資料、ビデオデータ	○	○
		2013	会議資料	○	○
		2014	会議資料	○	○
		2015	会議資料	○	○

表 3-4: 神楽奉納に関する調査概要及び資料から得られるデータ

ヒアリング調査		資料名	
対象者	岸劔神社・日吉神社・八幡神社神楽運営組織	郡上の祭り	・祭礼の歴史
方法	対面によるインタビュー形式	続・郡上の祭り	・役内訳と服装
期間	2015/10/30～11/2	郡上市歴史的風致維持向上計画	・前日までの準備記録など
内容	・神楽構成・巡行ルート ・運営主体の組織構成・役割分担 ・氏子の人数 ・祭費詳細 ・一年間の準備作業	郡上歴史の風致維持向上計画	・神社創建
		郡上歴史の風致維持向上計画	・建造物詳細

3.4 用語の整理

以降の調査で用いる主要な用語の説明を以下に示す。

(1) みこし

春祭りにおいて担がれるみこしは、本神輿だけでなく発泡スチロール等でキャラクターを模して制作されたものも含む。ここでは、そのようなものもまとめて平仮名でみこしと定義する

(2) 頼母子

一般的には「金銭の融通を含んだ民間の互助組織」を指す。頼母子に参加しているメンバーが毎月一定の金銭を出し合い貯蓄し、仲間内の一人が高額の買い物をする際に、頼母子で貯めた金を貸してもらおうといったやり取りが行われてきた。しかし、現在はそのような講としての意味を持つ頼母子は少なく、町内や同級生など気の合う仲間での月に一度の集まりを指すことが多い。

4. 郡上八幡春祭りの運営実態

4.1 郡上八幡春祭りの運営主体

郡上八幡春祭り開始時期は定かではないが、開始当初から 2007 年までの運営組織の中心は八幡町商工会であり、商工会主催のイベントとして行われていた。その後 2004 年の郡上市合併に伴い、八幡町商工会は郡上市商工会八幡支部となり、合併を契機として、事務局組織の再編が行われ、さらに郡上市各町村の商工会が主催するイベントの見直しも図られた。

2007 年度以降のみこしコンクールの運営体制は図 4-1 に示す。

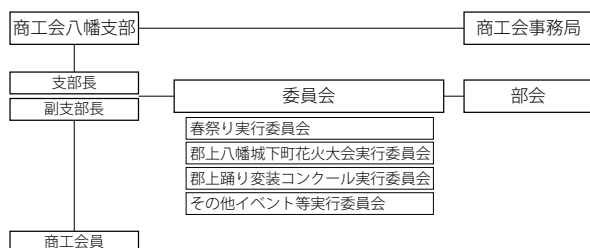


図 4-1: 商工会八幡支部と郡上八幡春祭り実行委員会の関係

4.2 郡上八幡春祭りの運営資金

春祭りの運営資金については、八幡町東部・南部・北部、小野、川合南部の 5 つの自治会（58 地区会）から一軒あたり 300 円の協賛金、また 150 ほどの企業から金額は任意で協賛金を募る。毎年大体 200 万円ほどになり、この資金がコンクールの賞金等に使われ、春祭りを運営している。コンクールの賞金は郡上市共通商品券であり、賞ごとに 15 万、10 万、7 万、5 万、3 万円となっている。また、三社の神楽舞に対しても岸剣神社・日吉神社に 5 万円、小野八幡神社に対しては遠方より旧八幡町内に来ること、奴踊りも加わり人数も多いことを加味して 7 万円をご祝儀として奉納する。

運営資金の多くはみこしコンクールの賞金ならびに神楽舞へのご祝儀となるが、資金の残りの内、7 万円ほどは来年の郡上八幡春祭りに向けて段幕などの備品のために貯金し、それ以外は準備金として不測の事態が起きた場合に備えて貯金する。

5. みこしの制作実態・組織に関する調査結果

5.1 みこしコンクール概要

みこしコンクールは、その年に制作されたみこしを対象とする。土曜日に夜審査、日曜日に昼審査が行われ、二回の審査を経て各みこしの順位が決定し、入賞作品には賞金（郡上市共通商品券）が授与される。土曜日の夜審査はみこしのライトアップの美しさや、参加団体のパフォーマンス等が審査の対象であり日曜日の昼審査ではみこしそのものの出来映えが評価される。みこしコンクールに出場するみこしの大多数は町内からの参加であるが、有志のグループで参加する場合もある。また、みこしコンクールに参加しない団体においてもみこしを出し、町内でご祝儀を集めることができる。本研究では、そのようなコンクールに参加しない団体を「コンクール不参加団体」、みこしコンクールに参加している団体は「コンクール参加団体」とし、本研究ではどちらの団体も研究対象とする。



図 5-1: コンクール参加団体（左）コンクール不参加団体（右）

5.2 みこし制作の歴史

(1) みこし制作のはじまり

郡上八幡春祭りにおける、みこしコンクールの開始時期は明らかではないが、昭和 25 年頃には、みこしコンクールという形態はとらないものの、みこしを制作し、春祭りの際にみこしを担いで町内をまわるという行為がなされていた。また、資料調査より、大正天皇御大典や昭和天皇御大典など記念の際に、各町内で山車を制作していたことがわかった。

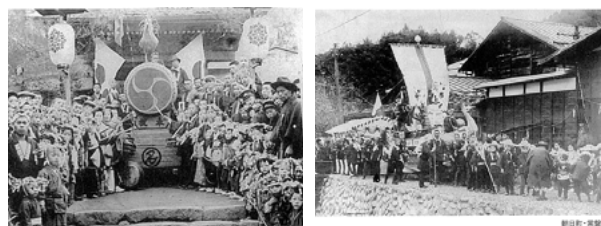


図 5-2: 大正天皇即位祝奉（左）昭和天皇即位祝奉（右）の様子

(2) みこし制作団体の変化

また、図 5-3 に、表 2-1 で示した資料を用いたみこしコンクール参加団体の変遷を示す。データの欠損等はあるものの、図をみると、1991 年から 2015 年の間にみこしコンクール参加団体が四分の一ほどに減ってしまっていることがわかる。南町におけるみこしコンクール参加町内が著しく減少し、小野や中坪といった

地区もみこしコンクール参加町内が半減、北町については 2015 年度にコンクール参加町内はゼロになった。

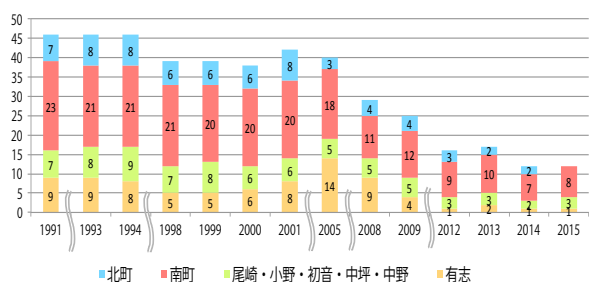


図 5-3: みこしコンクール参加団体変遷

図 5-3 にある有志団体の参加では、2008 年ほどまでは郡上八幡郵便局や八幡町役場青年部、株式会社高垣組などの企業参加も多かったが、徐々に減少していき、2015 年度は 1 団体のみとなっている。また、ヒアリングでは、以前のみこしコンクールを懐かしんで、2001 年に参加した郡上高校三年有志や、2005 年の春華など高校生の有志参加もあったことが話題としてあげられることが多かった。高校生の参加は 2008 年頃から途絶えるが、高校生の参加は郡上高校が学校規則によって禁止にしたためである。

(3) みこしの形態変化

みこしの形態変化に着目すると、みこしの電飾・ライトアップは、みこしの回りに取り付けられた豆電球やクリスマス用のイルミネーションライトを使用している町内が多い。また、みこしの材料には発泡スチロール等が主流であったが、5 年ほど前から、ねぶたのようにキャラクターの形に合わせて針金を組みその上から紙を貼り合わせていき、中からライトで照らすような形態のみこしも出現した。ねぶたの形態をとるみこしは、豆電球でライトアップするみこしよりも明るく、

コンクールの審査基準である電飾のきれいさにおいて有利である。



図 5-4 クリスマス用電球使用のみこしとねぶたみこしの様子

また、表 2-1 によるビデオ調査よりみこしのキャラクター造形の変化に着目すると、1991 年はちびまる子ちゃん、1993 年、1994 年はセーラームーンやクレヨンしんちゃん、1998 年はポケモンをかたどったみこしが多い。以前の春祭りでは、各町内、大人みこしと子供みこしの二台を制作していたが、制作人数の減少から子供みこしのみを作る町内が多くなってきており、現在キャラクターもののみこしが多いのは、子供のために制作されるみこしであることから子供に喜んでもらえるものを制作しているためである。これらのことから、みこしはその時々流行に合わせた造形がなされていることがわかる。

また、花みこしが、年度に関わらず様々な町内で制作されている。これは、郡上市に近い美濃市で四月の第二土日に行われる美濃祭りにて担がれるみこしであり、美濃市の無形民俗文化財に指定されている。

5.3 2015 年度のみこしの制作状況

(1) みこし制作の概況

2015 年度のみこし制作の概況を、みこしの形態・制作状況の分類・祭り終了後のみこしの取り扱いといった 3 点から整理したものを表 5-5 に示す。

表 5-5 2015 年みこし制作の実態

地区区分	みこし制作組織団体名	組織	制作人数	子供の人数	みこし制作有無・詳細	祭り後のみこし	活動拠点	みこしコンクール参加有無													
								1991	1993	1994	1998	1999	2000	2001	2005	2008	2009	2012	2013	2014	2015
北町	蔵人町子供会	町内会有志	5	5	継続	保管	長歌寺														
	中柳町子供会	子供会(子供が生まれてから)+有志	約5	1	継続: 前年に作成したもの手直し 2年前までは土曜日のみレンタル(武芸川)	保管	ガレージ														
	本町子供会	子供会: 小学生の親	1(1家族)	1	制作: 毎年	売却: 大和	ガレージ														
	尾崎町子供会	子供会(小学生の親)+有志	3-5	10	制作: 毎年	売却: 中野	尾崎町公民館														
	上ヶ洞子供会	子供会: 小学生と中学生の親	約5	12	制作: 前年までは2-3年前に作成したもの手直し	保管	上ヶ洞公民館														
	向山自治会	子供会(小学生の親)+有志	約5	4	継続	保管	向山公民館														
南町	上愛宕町有志ちびっこ会	子供会有志	約5	11	継続: 2-3体のみこしを年によって使い回し(白鳥町で購入)	保管	駐車場														
	中愛宕町子供会	子供会: 小学生の親	約10	15	制作: 毎年	売却: 白鳥	ガレージ														
	今町・今小町	子供会: 小学生の親	4	約10	購入: 購入品を手直し 作成する年もある(2-3年)	売却: 白鳥	ガレージ														
	新町子供会	子供会(子供が生まれてから)+若手のたのし	約10	—	制作: 昨年までは購入品を手直し(7-8年前のもの・岐阜産産市で購入)	保管	駐車場														
	新栄町子供会	子供会: 子供が生まれてから	11	約30	制作: 毎年	展示: 大和の道の駅	新栄町公民館														
	城南町子供会	子供会: 小学生の親	6	8	制作: 毎年	展示: 八幡病院	城南会館														
	大正町子供会	子供会: 小学生の親	2	3	継続: 昨年のみこしを手直し	保管	コミュニティセンター														
	常盤町子供会	子供会: 子供が生まれてから	3	3	購入: アンパンマン(購入先不明) 制作: アンパンマンを載せる山車 四年前までは購入(富江町)	保管	コミュニティセンター														
	上日吉町子供会	上日吉自治会	約12	3	継続	保管	コミュニティセンター														
	下日吉町子供会	子供会(子供が生まれてから)+有志OB	約8	6	制作: 毎年	廃棄	下日吉公民館														
	下柳町子供会	下柳自治会: 棋友会(たのし)	約10	約3	制作: 毎年	廃棄	弘法堂														
	小野子供会	子供会: 各町内約2名(小学生の親)	11	90	制作: 毎年	一体売却: 大和	小野青少年センター														
有志	中野子供会	子供会: 小学生の親	2-3	15	購入: 前年度の尾崎町のみこしを手直し	廃棄	向中野集会所														
	郡上八幡FC	有志団体: 郡上八幡FCのコーチ陣	2	約20	制作: 手直し	保管	駐車場														
	赤谷流し有志会	下愛宕町のたのし(二十日会)の有志	約6	—	継続	保管	駐車場														

コンクール参加: ■

コンクール不参加: □

みこし制作無: □

不明: ▨

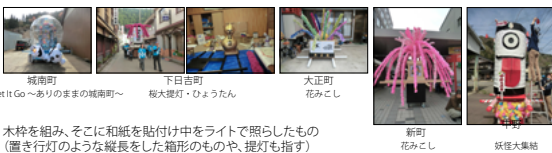
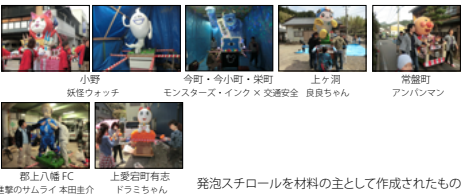
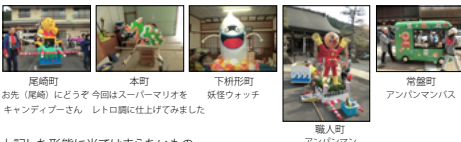
みこしの制作については新規に制作するもの、昨年使用したものを継続して使うもの、他所から購入するものがある。祭り後のみこしは保管・売却・展示・破棄される。

みこしの購入、売却についてみると、購入売却先は、同じように春祭りなどでみこしを吊る白鳥町や大和町など郡上市内の他町村の他に、近隣の関市武芸川や富加町なども上げられ、さらに、中野地区では前年度に尾崎地区が制作したみこしを購入していることがわかった。このことより、売買を通じた地域間の広域なネットワークが醸成されている一方で、制作を他地区に依存することで祭りを継続するという柔軟な制作形態が、郡上八幡春祭りみこしコンクールの特徴のひとつであると考えられる。

(2) みこしの形態と扱い

2015 年度のみこしコンクール参加・不参加団体におけるみこしの形態を表 5-6 に示すように 5 つに分類した。

表 5-6 2015 年度みこしのタイプ分類

ねぶた型	 新栄町 中野町 新聞ウォッチ・郡上良良ちゃん コマさん・コマさんの子供みこし 針金や竹などで作りたい形の骨組みを組み、そこに和紙を貼付けて色をいれ、中をライトで照らしたものの
行灯型	 城崎町 下日吉町 大正町 Let It Go 〜ありのままの城南町〜 極大提灯・ひょうたん 花みこし 木枠を組み、そこに和紙を貼付け中をライトで照らしたものを(置き行灯のような縦長をした箱形のものや、提灯も指す) 新町 妖怪大集結
発泡スチロール型	 小野 今町・今小町・栄町 上ヶ洞 常盤町 妖怪ウォッチ モンスターズ・インクス 交通安全 良良ちゃん アンパンマン 郡上八幡 FC 上愛宕町有志 発泡スチロールを材料の主として作成されたもの 遠賀のサムライ 本田圭介 ドラミちゃん
本神輿型	 上日吉町 本山 中野町 赤谷流有志会 花みこし 花みこし 赤谷流 本神輿や宮神輿と言われ、一般的な神輿と同じように制作されたもの
その他	 尾崎町 本町 下柳形町 常盤町 お先(尾崎)にどうぞ 今回はスーパーマリオを キャンディブーさん レトロ調に仕上げてみました 妖怪ウォッチ アンパンマンバス 上記した形態に当てはまらないもの 職人町 アンパンマン

今年度のみこしには、2014 年度に流行した妖怪ウォッチや郡上市合併 10 周年記念事業として制定されたマスコットキャラクターの郡上良良ちゃんなどが作られた。

本神輿型のみこしと発泡スチロール型のみこしは翌年に向けて保管されやすい。発泡スチロール型のみこしは、次年度で改修・補修がしやすいために選択される。一方、切り出しの際の粉塵を敬遠して、制作しない団体もある。また、ねぶた型のみこしは中にバッ

テリーを入れる等、重量があるため、担ぎ手の多い町内に特化する傾向もある。このように、各団体の実情に合わせて、みこしの材料、形態は工夫されていると言える。

5.4 みこしの制作組織の形態とその特徴

(1) みこし制作組織の運営形態

表 5-5 に示したみこし制作の実態から、各みこし組織の運営形態を図 5-7 に示す。みこし制作における組織形態には、子供会や町内会が中心になる地縁型組織と、有志団体が中心となるテーマ型組織の二つに大きく分けられる。その中でも地縁型組織はさらに、いくつかのパターンに分けられる。各団体における運営組織は子供会が主体となっているところが多いが、頼母子のメンバーに参加してもらったり OB から昔のみこしづくりの技術を教えてもらったりと、町内の様々な人とのつながりによってみこし制作が成り立っている。

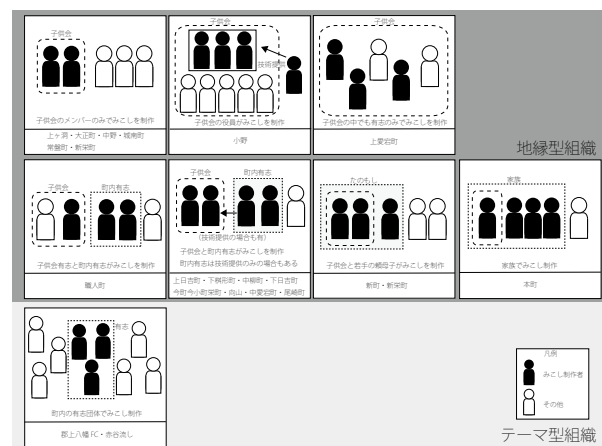


図 5-7 2015 年みこし制作組織のダイアグラム

各団体における運営組織は子供会が主体となっており、郡上八幡における子供会は、基本的に小学生から中学生の親子が参加する町内自治組織である。子供会での行事としては各町内とも、歓送迎会・春祭り・夏休みの旅行や一日ボランティア・クリスマス会などがあるが、少子化により縮小化や消滅している行事もある中で、春祭りが同年代の親同士が交流できる場の機能として大きな役割を果たしている。そして、子供が生まれるということがきっかけとなり、様々な人が参加しやすい仕組みとなっている。そしてそこから子供会の活動を通じて町内でのネットワークも広がっていくのではないかと考える。

(2) みこし制作におけるキーパーソンの存在

みこしの制作においては、仕事の技能や作り手それぞれの得意なことを活かした役割分担がなされている。表 5-8 に、今回の調査で聞き取ることができた、専門技術などを生かすみこし制作時の役割分担を町内

毎に示す。電気配線は専門的な技術として、役割分担されており、子供会に所属するメンバーだけではなく、町内の電気屋さんや昔から配線を担当してきた住民に毎年委託している団体もある。

表 5-8 2015 年みこし制作における役割

地区区分	みこし制作組織団体名	キーパーソン・専門や技術を必要とする作業（0 内は所属を示す）
北町	職人町子供会	みこし制作：大工の方、絵を描くのが好きな方（町内）
	中柳町子供会	宮神輿制作・電気配線：I氏（町内）
	本町子供会	みこし制作：H氏1人で制作（子供会）
	尾崎町子供会	電気配線とキャラクターの造形デザイン（町内）
	上ヶ洞子供会	—
	向山自治会	以前のみこし制作における中心人物：木工職人（町内）
南町	上愛宕町有志つっこ会	—
	中愛宕町子供会	みこしの塗装や模様入れ：W氏（子供会）
	今町・今小町	電気配線（不明）
	栄町子供会	—
	新町子供会	みこしの担当責任者：H氏（子供会）
	新栄町子供会	針金の加工：T氏・電気配線・印刷など（子供会）
	城南町子供会	—
	大正町子供会	—
	常盤町子供会	電気配線・デザイン、印刷など（町内）
	上日吉町子供会	電気配線・塗装・装飾具制作（町内）
	下日吉町子供会	みこしに字入れ（町内）
	下樹形町子供会	電気配線（町内）
有志	小野子供会	電気配線・テント設置など（町内）
	中野子供会	—
	郡上八幡FC	—
	赤谷流し有志会	みこし制作：I氏

ものづくりという作業を通じて、ある人間が多くの住民から認知される。このようなキーパーソンとなる人物が生じる場面が多々あることによって、町内の繋がりが広がる要因のひとつになっていると考える。



図 5-10: 電気配線を行う技能者（左）とキーパーソン（右写真手前）

5.5 みこしの制作資金とその特徴

(1) 組織の運営資金について

春祭り参加組織の運営資金について、ヒアリングおよび詳しい資料を得た 6 団体の収支データをもとに整理する。

みこしコンクールでの収入を運営の資金源にしている団体が多くを占める。みこし制作団体は子供会が主となるところが多いが、子供数の減少などにより町内会の補助金を受けていないところもあり、コンクールでの収入が子供会自体の重要な資金源になっている。

みこしコンクールでの祝儀は、現金と商品券の二種類があることが特徴的である。調査により運営資金が判明した団体のみこしコンクール総収入は 30 万円程度であり、祝儀の区分がわかっているところでは、現金がおよそ 8 割を占めていた。地元の商店で買い物を

してもらうために、地域商品券などを祝儀とするところもあり、コンクールの賞金も商品券である。商品券はみこしの材料代や当日の飲食代に用いられ、子供会での日帰り旅行や慰労会等に祝儀の現金を充当する。

また、支出を見ると、どの団体もみこしコンクールでの打ち上げや子供会での旅行を除くと、祭り当日の飲食費や制作時の飲食費が多くを占めている。

このように、運営資金という側面から見ると、みこしを担いで町内を回することで、特に子供会は、旅行等、春祭り以外の行事（クリスマス会や歓送迎会など）の資金源を得ており、そのことが、春祭りが継続する 1 つの意義であると考えられる。また、みこし制作団体の支出では、みこしの制作費だけではなく、春祭り当日、制作時の飲食代が大きな割合を占めており、春祭りを通じて八幡全体の商店が恩恵を受けていると言える。

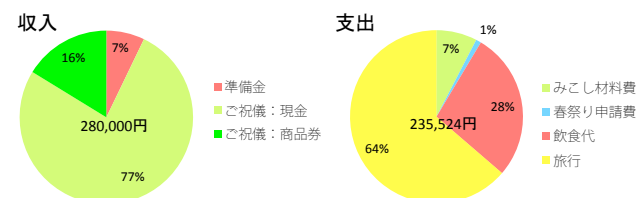


図 5-11: 下樹形町子供会におけるみこしコンクール収支割合

(2) 御通帳制度について

郡上八幡ではツケを記しておく帳面である御通帳を町内の店舗で使うことができる。御通帳に品物と金額を記入し、品物を受けとり、その後、祭りで集めたご祝儀等で品物の金額を店に支払いに行くという仕組みであり、以前は葬式の際にも使用していたが、現在は葬式を家で行うことは少なくなったため、専らみこし制作のために使われている。また、御通帳を使わなくても町内の見知った顔であれば後払いで材料を買うこともできる。

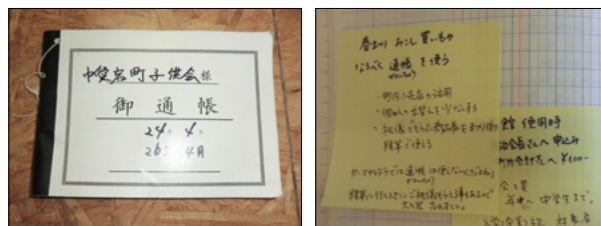


図 5-12: 中愛宕町御通帳（左）と尾崎町の通帳使用喚起のメモ（右）

5.7 みこしに対する愛着

(1) みこし制作を継続するモチベーション

みこし制作者のヒアリングからは、自らが子どもだった際に親が作ってくれたことや祭りの楽しい思い出を子どもに継続して伝えていきたいという発言が多く聞かれた。また、地区によっては子供のみこし制作

に携わるところもあり、大人と一緒にみこしを作ること
で道具の使い方を教わったり、子供同士で祭り当日
の役割分担を考えたりと、子供の頃からみこし制作に
積極的に関わっている様子が見られる。



図 5-20: 子供によるみこし制作の様子

(2) 競争意識を通じた地区内の結束意識の高まり

コンクール参加団体は他地区の制作するみこしに対
して競争意識を持つことがある。明確な競争意識にま
では至らないまでも、他地区の作るみこしに興味があ
り、A 地区ががんばっているなら自らの地区も負けて
いられないという思いからみこし制作を通じて地区内
の結束が高まる場合があると考えられる。

6. 三社の大神楽奉納に関する調査結果

6.1 三社合同例祭概要

郡上八幡春祭りはみこしコンクールと神楽から構成
される。本章では、県の無形民俗文化財にも指定され
ている神楽についての調査結果を述べる。

春祭りでは北町から岸剣神社、南町から日吉神社、
小野地区から小野八幡神社の大神楽が町内を練り歩
く。各神社ともに独自のお囃子を奏で、舞子が舞いな
がら、試楽と本楽の 2 日間、町内を巡行し、晴天であ
れば旧庁舎前にて三社の神楽奉納を行う。このことよ
り三社合同例祭と呼ばれる。小野八幡神社は大神楽に
加えて奴踊りが奉納される。三社の神楽は、獅子の回
し方や、舞子の花笠、衣装等少しずつ異なっている（図
6-1、6-2）。



図 6-1: 岸剣神社（左）と日吉神社（右）の神楽の様子¹²⁾



図 6-2: 小野八幡神社の神楽の様子¹²⁾

6.2 各神楽の運営形態

三社における神楽の運営組織を図 6-3 に示す。演者
や指導者として神楽に実際に携わっている組織を岸剣
神社、小野八幡神社では奉賛会、日吉神社では芸能保
存部と呼ぶが、春祭りで大神楽を行うにあたって、奉
賛会等の組織以外にも氏子総代、地区長などが参加し
て運営している。

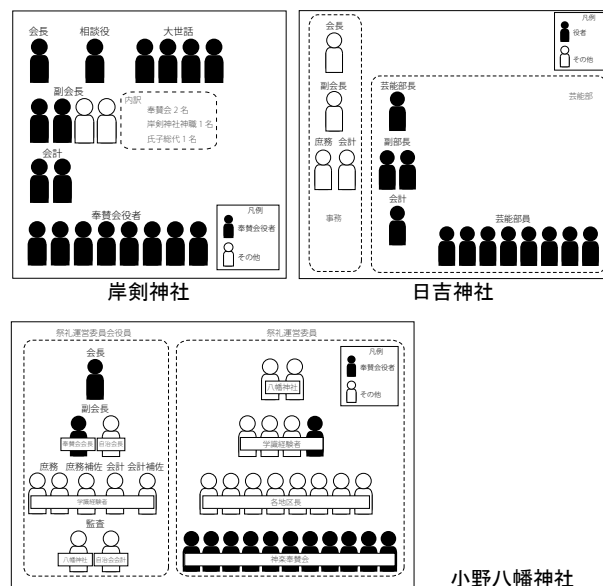


図 6-4: 各神社における神楽運営組織

実際に神楽舞を行う役者は芸能部と呼ばれる 30 人ほ
どの組織に属しているが、芸能部のみでは春祭りの神
楽行列に人数が足りないため、図 6-5 のように氏子範
囲の各町内から 1 人ずつ出役して幟持ちなど巡行の手
伝いをしてもらう。4 月に入り、春祭りに向けた神楽
の練習や、前述した神楽委員の役割分担等が行われ、
準備が進む。神楽委員の選出については各地区に任せ
ており、2015 年度であれば 4 月 2 日の神楽委員会まで
に神楽委員を地区内で決定し、神楽委員会には今年度
神楽委員となった住民が参加する。三神社とも、神楽
委員には日当が支払われ、町内によっては 1 日あたり
12000 円程度が支給される。また、日吉神社と岸剣神
社では、神楽の練習期間中、神社を下りて練習宿とい
う氏子町内のお宅で練習を行う。

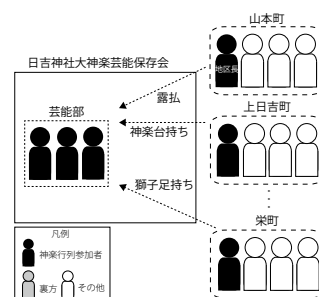


図 6-5: 奉賛会と町内関係図

また、神楽の練習は月に 1 回定例で行われ、舞子の舞、小太鼓、大太鼓の練習が主である。日吉神社の例では、子役は 1 年で全て交代し、小学 2、3 年生までは鼓打ち、そこから鼈摺りを 1 年、大太鼓を 1 年～2 年、付け太鼓を 1 年と順に経験していく。中学生になると、笛もしくは獅子を行う。このように、神楽の運営組織は年齢や役別に関するルールが各々あり、システム化されている。



図 6-6: 月に一度の練習風景 (日吉神社大神楽芸能保存部)

6.3 神楽の運営資金について

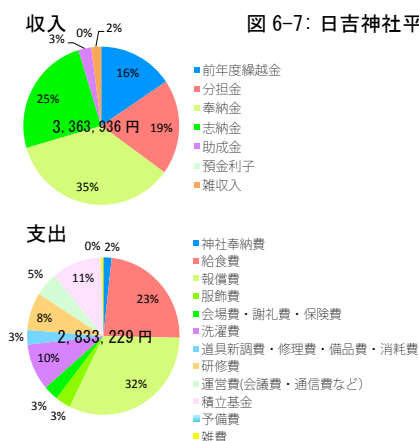
神楽の運営資金について、日吉神社大神楽芸能保存会の例から整理する。

春祭り神楽奉納での収入は、郡上市からの補助金、氏子町内にある各家から徴収する町内分担金、一般的にはご祝儀、しのぎと呼ばれる奉納金、志納金から成り立つ。毎年大神楽運営は上記の資金によって運営していくことが可能であるが、道具の大規模な修繕や高価な衣装の購入の際は、郡上市からの補助金とは別に、文化財団や岐阜県教育委員会からの補助金を申請する。

また支出をみると、報償費である芸能部や子役、神楽委員への御礼、当日の飲食費が支出の多くを占めている。

このように、運営資金を考えると、神楽運営は町内からの志納金によって成り立っていること、支出においては、昼食や酒など飲食に関わるものは、氏子範囲内で調達するという意識があることについては、みこし制作組織と同様であると言える。一方で、道具の購入等には高額な補助金を適用し、京都での制作を依頼するという点がみこしとは異なる伝統文化の継承を行うという意義によって成り立っている仕組みであると考える。

図 6-7: 日吉神社平成 26 年度収支割合



6.4 神楽に対する愛着・誇りにについて

ヒアリングからは「(神楽に携わった人間は) 遠くに住んでいても祭りの日は必ず帰ってくる」「子供の頃から神楽の音が染み付いている」といった発言を三社ともに聞くことができた。神楽には強い求心力があり、それを誇りとして考えていることが発言から伺える。また、春祭りが来なければ郡上の春は始まらないというような意見や、神楽に携わっていない人間でも氏神神社ではない神社の神楽は滅多に見ないという意見もあるなど地域の神事として確固たる地位を築いており、そのような神事に加わることで神楽従事者は神事に対する使命を果たすことができた充実感を得、それによって神楽に対して強い愛着を持つと考える。

また、神楽に携わる人のみこしコンクールに対する意識には地域差が見られた。南町はみこし制作町内が多いことから、日吉神社は町内行事も神楽行事も両立を推奨しており、2011 年の東日本大震災によってみこしコンクールが中止になった際は町に活気が無かったと語る。一方で、小野八幡神社や岸剣神社は、「全然興味も無いし、子供もやっぱり神楽に携わっとる子は夜みこしに行くなんて考えられんくらい」「どっちかや。神楽を取るか、みこしを取るか」という発言もあった。小野では 1 丁目から 8 丁目に住む小学生の親の中で役員が毎年選出され、そのメンバーのみでみこしを作るため、みこし作りに携わるきっかけが少ないこと、北町ではみこしに参加する町内が減少してきていることから以上のような神楽を重要視する発言が出たと考える。

7. 考察

大神楽奉納とみこしコンクール、春祭りで同時に行われる二行事の運営組織、財源の確保、行事に対する愛着という三点からの調査結果より、両行事の相違点、共通点を表 7-1 に整理した。

これをもとに、みこしコンクールにみられるものづくりを伴う地域行事の意義を以下に考察する。

表 7-1: みこし制作・神楽奉納に関する調査結果のまとめ

	みこし制作	共通項目	神楽運営
組織形態	流動的な組織構成 職能・技能を生かす役割分担	世代の多層性	年功序列型の組織構成 年齢や役別に関するルールに基づいたシステム
愛着	地区に対する愛着 競争意識から生まれる協同での祭りの創出	過去の記憶の継承 みこし制作は制作時の記憶に対して 神楽運営は伝統文化の記憶に対して	行事に対する愛着 集団凝集性の高さ
資金	他活動の資金源 御通帳制度 町内の多様な店舗での購入	祝儀による運営	補助金の適用 町外での道具・衣装制作

(1) 春祭りにおける二行事の対照

①運営組織の観点からみると、両者に共通するのは行事に携わる世代の多層性である。

三神社の大神楽運営組織は、関係者同士の強固な中心性、凝集性が特徴的であり、その特性を担保するように、幼い頃から技の伝承を行う年功序列型の組織運営がなされている。

みこし制作を行う町内組織は、流動性が高い子供会が中心となり、制作を通じて多様な技術を持つ町内の人々に関わるというゆるやかなつながりが生成されている。さらに、職能や技能を生かした役割分担がなされ、組織の構成員がみこし制作において主要な役割を果たすことで、周囲に認知され、地域に愛着を抱くきっかけとなると言える。

②運営資金という点では、両者ともに、祭り当日の飲食など、自らの地区もしくは氏子範囲内で準備するという意識が醸成されている。その中でも、特にみこし制作を行う上では御通帳を使用した地域内経済循環の仕組みがあり、食品販売店舗だけでなくみこしの材料を様々な店舗で購入することで、郡上八幡全体の活気につながる。

③各行事に対する愛着をみると、神楽に携わる人々は伝統芸能の継続や組織内の人間関係のつながりの強さに対する誇りが継続意識につながる。対して、みこし制作においては、制作者が幼少期に経験した春祭りの記憶を次世代にも体験させたいという思いが継続意識につながっている。さらに、みこしコンクールという特性上から、制作時には他地区との競争意識から結束意識が高まるなど、作業過程を通じて、地区内のコミュニティを意識している。また、各団体互いに競争意識を持ちながらも、同時に、共に春祭りを作り上げていく共同体であるということが春祭りを通じて地区内の結束だけではなく、町内全体の意識へとつながっていると考えられる。

(2) ものづくりを伴う地域行事の意義

①職能や技能を生かした役割分担から、コミュニティの構成員が団体のキーパーソンとなる場面が生じる。ものづくりという作業を伴う地域行事では技術の得手不得手が目に見えるため、制作の中心を担う人がわかりやすい。そのような他者からの認知は、組織に対する愛着、ひいては地域に対する愛着を生むと考える。ものづくりにおけるキーパーソンは、まちづくり等を話題にする際に注目される地域のそれとは異なるが、地域において他者から認知される人間が多様であるということは地域活動の多様性につながっている。

②ものづくりによる制作物の優劣が客観的に判断しやすいことによる地区間の競争意識や対抗意識が地区内の結束を作り上げており、そのような意識の高まりが結果として、協同で祭りの盛り上がりを創出している。

③地域内にある商店で材料調達を行うことによって地域内での経済循環を生みだしている。

以上より、ものづくりを通じた地域行事におけるこれらの要素は、コミュニティの持続性や強化に対して貢献していると考えられる。

<参考文献及び注記>

- 1) 渡部一二・郭中端・堀込憲二：「水縁空間：郡上八幡からのレポート」住まいの図書館出版局，1993
- 2) 内山節：「共同体の基礎理論」農村漁村文化協会，2010
- 3) 竹元秀樹：「祭りと地方都市 都市コミュニティ論の再考」新曜社，2014
- 4) 石川仁生・木下光・丸茂弘幸・長友伸介：運営形態からみた西条祭りの内発的発展の基礎的条件に関する研究，都市計画論文集，No. 38，pp877-882，2003
- 5) 根岸亮太・後藤春彦・田口太郎：祭事が地域運営に与える影響に関する研究－埼玉県秩父市における秩父夜祭を対象として－，日本建築学会計画系論文集，No. 622，pp129-136，2007
- 6) 藤井基弘・深町加津枝・森本幸裕・奥敬一：伝統行事「京都五山送り火」の形態と祭祀組織に関する研究，ランドスケープ研究 75 (5)，pp587-592，2012
- 7) 山崎丈夫：「地域コミュニティ論 地域住民自治組織とNP0，行政の協同」自治体研究社，2003
- 8) 内閣府経済社会総合政策研究所：コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書，研究会報告書，2006. 8，<http://www.esri.go.jp/jp/prj/menu.html>，2015/07/30 閲覧
- 9) 郡上市歴史的風致維持向上計画 第二章維持向上すべき歴史的風致 <http://www.city.gujo.gifu.jp/admin/docs/pc25-2-6.pdf>，2015/11/13 閲覧
- 10) 寺田敬蔵：「郡上の祭り」，郡上史談会，1977
- 11) 「郡上八幡町史 下巻」，八幡町役場発行，1961
- 12) <http://yoshik.boy.jp/matsuri/08/15gujo/gujo.html> 2015/11/26 閲覧
- 13) 嶋数男：「写真が語る郡上八幡の一世紀：明治・大正・昭和の記録」，あゆみ会，1994

(外部発表)

土木学会第 11 回景観・デザイン研究発表会

「共同でのものづくりを伴う地域行事の特質と意義に関する研究－岐阜県郡上市八幡町における春祭りを対象として－」投稿済 2015 年 12 月 13 日発表